

TPPから「地域」「暮らし」「いのち」を守る オホーツク総決起集会宣言

平成22年10月に、TPP交渉の参加検討が表明されて以降、我々は一貫して交渉参加反対運動を展開し、幅広くTPPの問題点を訴える活動を行うとともに、政府に対して、地域や生活に与える影響への不安を、あらゆる手段で強く訴えてきた。

こうした中、政府はTPP交渉参加を決定し、交渉会合への正式参加が目前に控えているが、多くの国民が求めている詳細な情報公開も、徹底した国民的議論もないまま、正式参加に向けた手続きが進んでいることは、切実な地方の声が届いていないと言わざるを得ず、極めて遺憾であり、断じて容認できない。

TPPは例外なき関税撤廃を原則としているため、オホーツク管内の基幹産業である農林水産業をはじめ、関連産業も含め地域経済全体に壊滅的な打撃を与え、地域そのものが崩壊する。

また、関税撤廃のみならず、医療・医薬品、金融・保険、公共事業、食品の安全基準・表示制度、ISD条項など私たちの暮らしや地域社会全体に深刻な影響を及ぼし、まさに国の「かたち」を歪めかねない危険な協定であり、国益にかなうものではない。

TPPから、ふるさとオホーツクの「地域」「暮らし」「いのち」を守り、安心して暮らせる豊かな地域社会を築くためには、TPP交渉から即時脱退すべきである。

正式に交渉参加へと進む政府に抗議し、TPP交渉からの即時脱退を強く求めるとともに、今後も、道民・関係機関・団体が一丸となり、より強固なオホーツク地域の声を訴え断固反対を貫いていく。

以上、宣言する。

平成25年7月22日

TPPから「地域」「暮らし」「いのち」を守るオホーツク総決起集会